

(51) Int. C1.5

識別記号

府内整理番号

F I

技術表示箇所

H 01 P 1/18

1/06

5/12

8941-5 J

H 01 Q 3/34

2109-5 J

11/04

審査請求 未請求 請求項の数 7 O L

(全 7 頁)

(21) 出願番号

特願平5-110283

(22) 出願日

平成5年(1993)5月12日

(71) 出願人 000002130

住友電気工業株式会社

大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号

(72) 発明者 三田 雅樹

大阪市此花区島屋一丁目1番3号 住友電気  
工業株式会社大阪製作所内

(72) 発明者 多湖 紀之

大阪市此花区島屋一丁目1番3号 住友電気  
工業株式会社大阪製作所内

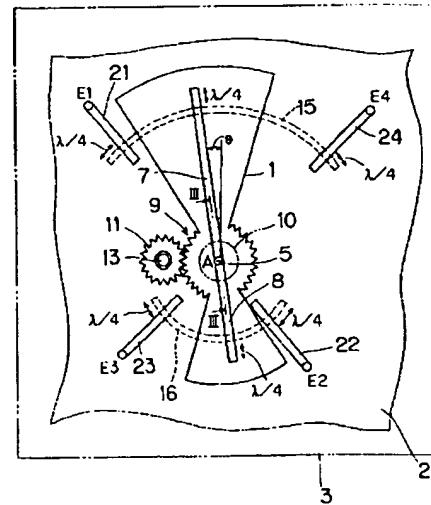
(74) 代理人 弁理士 亀井 弘勝 (外1名)

## (54) 【発明の名称】分配可変移相器

## (57) 【要約】

【目的】簡単でかつ信頼性の高い構成により電力の分配が行え、分配された信号の位相を連続的に変化させることができる分配可変移相器を提供する。

【構成】回転基板1は固定基板2に対して相対的に回動可能である。回転基板1には入力端Aからの高周波信号を2分配する入力ストリップライン7, 8が形成されている。固定基板2には、相互に半径の異なる円弧状スロットライン15, 16が形成されている。これらの各両端には、出力ストリップライン21, 22, 23, 24が結合させられている。入力端Aからの高周波信号は出力端E1～E4に4分配される。回転基板1を回動させると、入力端Aから出力端E1～E4に至る伝送経路長が連続的に変化する。そのため、移相量が連続的に変化する。また、出力端E1～E4からは異なる位相の信号を取り出され、かつ、回転基板1の回動に伴って信号相互間の位相差を変化させることができる。



1 … 回転基板

2 … 固定基板

7, 8 … 入力ストリップライン

15, 16 … スロットライン

21, 22, 23, 24 … 出力ストリップライン

BEST AVAILABLE COPY

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】所定の軸線まわりに相対的に回動させることができる第1基板および第2基板を有する分配可変移相器であって、

上記第1基板は、上記軸線上に設けられた入力端と、この入力端から分岐したn ( $n = 1, 2, 3, 4, \dots$ ) 本の入力ストリップラインとを有し、

上記第2基板は、上記n本のストリップラインにそれぞれ結合されているとともに、上記所定の軸線上に中心を共有しているn本の円弧状スロットラインと、このn本の円弧状スロットラインの各両端にそれぞれ結合された2n本の出力ストリップラインとを有することを特徴とする分配可変移相器。

【請求項2】上記n本の円弧状スロットラインは相互に異なる半径を有していることを特徴とする請求項1記載の分配可変移相器。

【請求項3】上記n本の円弧状スロットラインは、半径の比が1:3:5:……:(2n-1)となるように形成されていることを特徴とする請求項2記載の分配可変移相器。

【請求項4】上記入力端と給電線との間を、上記所定の軸線まわりの相対的な回動を許容する状態で結合するロータリジョイントをさらに含むことを特徴とする請求項1乃至3のいずれかに記載の分配可変移相器。

【請求項5】上記第1基板および第2基板を上記所定の軸線まわりに相対的に回動させるための回転機構と、この回転機構に回転力を与えるための操作部とをさらに含むことを特徴とする請求項1乃至4のいずれかに記載の分配可変移相器。

【請求項6】上記入力ストリップライン、上記出力ストリップラインまたは上記円弧状スロットラインにインビーダンス変換器が介装されていることを特徴とする請求項1乃至5のいずれかに記載の分配可変移相器。

【請求項7】上記入力端にインビーダンス整合回路を設けたことを特徴とする請求項1乃至5のいずれかに記載の分配可変移相器。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、高周波信号の電力分配を行えるとともに、分配された信号の位相を連続的に変化させることができる分配可変移相器に関する。この分配可変移相器を用いることにより、たとえば移動通信基地局において用いられるアレイアンテナのビームチルト角を電気的に変化させることができる。

## 【0002】

【従来の技術】アレイアンテナのビームチルト角を変えるために、電力分配器で分配された高周波信号を各アレイアンテナ素子に給電するケーブルの長さを変え、これによりアレイアンテナに給電される高周波電流の位相分布を変えるようにした給電装置が用いられている。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】このような給電装置ではケーブルの長さによって高周波信号の移相量が設定されることになるが、たとえば、移相量を変えようすると、ケーブルをコネクタから取り外し、長さの違うケーブルと交換するかケーブル自体を短縮し、再度コネクタの取付けを行うという繁雑な作業が必要となる。とりわけ、給電装置が屋外に設置される場合には、コネクタ部には防水処理が施されるから、防水処理部の取外しおよび取付けの各作業も行わなければならない。

【0004】また、アレイアンテナのビームチルト角を変えるため、ケーブルの長さを同一とし、電力分配器とアレイアンテナとの間に移相器を介装したものも用いられている。この構成では、位相を連続的にまたは細かなピッチで変化させようとすると、多数のスイッチとケーブルとが必要になり、給電装置の寸法が大きくなるとともに、コストも増大する。しかも、上記スイッチは機械的接点を有しているので、経年変化によって接触不良を起こす可能性があり、相互変調や雑音を生じさせるおそれがある。

【0005】そこで、本発明の目的は、上述の技術的課題を解決し、簡単でかつ信頼性の高い構成により、電力の分配が行えるとともに、分配された信号の位相を連続的に変化させることができる分配可変移相器を提供することである。

## 【0006】

【課題を解決するための手段および作用】上記の目的を達成するための請求項1記載の分配可変移相器は、所定の軸線まわりに相対的に回動させることができる第1基板および第2基板を有する分配可変移相器であって、上記第1基板は、上記軸線上に設けられた入力端と、この入力端から分岐したn ( $n = 1, 2, 3, 4, \dots$ ) 本の入力ストリップラインとを有し、上記第2基板は、上記n本のストリップラインにそれぞれ結合されているとともに、上記所定の軸線上に中心を共有しているn本の円弧状スロットラインと、このn本の円弧状スロットラインの各両端にそれぞれ結合された2n本の出力ストリップラインとを有することを特徴とする。

【0007】この構成によれば、第1基板の入力端に高周波信号を与えると、この高周波信号はn本の入力ストリップラインに分配された後に第2基板に形成されたn本の円弧状スロットラインに与えられ、さらに、各円弧状スロットラインの両端に結合している出力ストリップラインに与えられる。これにより、入力された高周波信号は2n分配されることになる。

【0008】第1基板と第2基板とを所定の軸線まわりに相対的に回動させると、入力端から出力ストリップラインに至る伝送経路長は、回動された角度と円弧状スロットラインの半径とに応じて変化する。この伝送経路長に対応して高周波信号の移相量が設定されるから、第

1基板と第2基板とを相対的に回動させることで、移相量を連続的に変化させることができる。

【0009】請求項2記載の分配可変移相器は、上記n本の円弧状スロットラインは相互に異なる半径を有していることを特徴とする。この構成によれば、n本の円弧状ストリップラインは相互に異なる半径を有しているから、第1基板と第2基板との相対的な回動に伴う上記の伝送経路長の変化は、各出力ストリップラインごとに異なる。したがって、2n本の出力ストリップラインから取り出される信号間の位相差を連続的に変化させることができる。

【0010】請求項3記載の分配可変移相器は、上記n本の円弧状スロットラインは、半径の比が1:3:5:……:(2n-1)となるように形成されていることを特徴とする。この構成によれば、第1基板および第2基板の相対的な回動に伴う入力端から各出力ストリップラインに至る伝送経路長の変化量をテーパ状に設定できる。すなわち、入力端に与えられた高周波信号をテーパ状の位相差を有する2n個の信号に分配することができる。

【0011】なお、請求項4に記載されているように、上記入力端と給電線との間を上記所定の軸線まわりの相対的な回動を許容する状態で結合するロータリジョイントを備えることが好ましい。また、請求項5に記載されているように、上記第1基板および第2基板を上記所定の軸線まわりに相対的に回動させるための回転機構と、この回転機構に回転力を与えるための操作部とを備えることが好ましい。

【0012】さらに、入力端と出力ストリップラインの端部の出力端とのインピーダンスを整合させるためには、上記入力ストリップライン、上記出力ストリップラインまたは上記円弧状スロットラインにインピーダンス変換器を介装したり(請求項6)、上記入力端にインピーダンス整合回路を設けたり(請求項7)すればよい。

### 【0013】

【実施例】以下では、本発明の実施例を、添付図面を参照して詳細に説明する。図1は本発明の一実施例の分配可変移相器の構成を示す平面図である。この分配可変移相器は、第1基板としての回転基板1と、第2基板としての固定基板2とを備えている。固定基板2は仮想線で示すシールドケース3に固定されており、回転基板1は固定基板2に対して所定の軸線5まわりに回動自在であるように取り付けられている。

【0014】回転基板1は絶縁物で構成されており、その表面には、軸線5から離反する方向に延びる入力ストリップライン7、8が形成されている。入力ストリップライン7、8には、固定基板2の背後に設けられた入力部10を介して入力端へから高周波信号が給電される。回転基板1の裏面には導体は形成されていない。回転基板1は、軸線5の周囲に歯車部9を有している。この歯

車部9は、固定基板2に回動自在に保持された歯車11と噛合している。歯車11にはシールドケース3外に突出する操作部としてのノブ13が固定されており、このノブ13を回動させることによって、回転基板1を回動させることができる。すなわち、歯車部9および歯車11などによって回転機構が構成されている。

【0015】固定基板2は絶縁物で構成されており、その裏面にはほぼ全面に導体が形成されている。この導体の一部が円弧状に除去されることによって一对のスロットライン15、16が形成されている。円弧状スロットライン15、16は、軸線5上に中心を共有するもので、半径の比が3:1になるように円弧状に形成されている。回転基板1に設けられた上記の入力ストリップライン7、8は、各先端部がそれぞれスロットライン15、16に結合している。すなわち、入力ストリップライン7、8は、長さの比がほぼ3:1になるように設定されている。具体的には、入力ストリップライン7、8は、先端部がスロットライン15、16よりもλ/4(λは給電される電波の波長)だけ軸線5から離反した位置まで延びて形成されている。

【0016】固定基板2の表面には、スロットライン7、8の各両端部にそれぞれ結合する4本の出力ストリップライン21、24;22、23が形成されている。さらに詳細に説明すると、出力ストリップライン21、24;22、23は、スロットライン7、8の各両端からλ/4だけ内側の位置において、スロットライン7、8とほぼ直交している。出力ストリップライン21、22、23、24はいずれも等しい長さを有している。

【0017】図2は、回転基板1の表面に形成された入力ストリップライン7と固定基板2の裏面に形成された円弧状スロットライン15との結合状態を説明するための断面図である。回転基板1と固定基板2とは接接しており、この2つの絶縁物で構成された基板1、2を介して入力ストリップライン7と円弧状スロットライン15との結合が達成されている。18は固定基板2の裏面に形成された導体である。なお、入力ストリップライン8とスロットライン16との結合に関するても同様である。

【0018】図3は、図1の切面線III-IIIにおける断面図であり、入力ストリップライン7、8に高周波信号を給電するための入力部10の構成が示されている。回転基板1の裏面(固定基板2に接接している面)には、軸線5に沿って円筒状の結合部材25が固定されており、この結合部材25は半田などの接続部材26を介して入力ストリップライン7、8に電気的に接続されている。結合部材25は固定基板2に形成された孔27を回動自在に押通しており、さらに、シールドケース3に形成された孔29から外部に露出している。孔29の縁部には、給電線としての同軸ケーブルに接続されたコネクタ31を接続させるためのコネクタ33が取り付けられている。同軸ケーブル側のコネクタ31の外部導体

31eがコネクタ33に嵌め込まれると、コネクタ31の内部導体31iは、円筒状の結合部材25の内部空間に入り込む。内部導体31iと結合部材25との間には間隙35が形成されている。

【0019】この構成により、コネクタ31を介して与えられる高周波信号を結合部材25および接続部材26を介して入力ストリップライン7、8に給電することができる。しかも、回転基板1の回転に伴って結合部材25が回転しても、コネクタ31の内部導体31iと結合部材25との結合状態は不变に保持されるから、その回転時に雑音などが生じることもない。このように円筒状の結合部材25とコネクタ31の内部導体31iとによって、いわばロータリジョイントが構成されている。

【0020】以上のような構成では、入力部10から高周波信号を給電すると、この信号は入力ストリップライン7、8に2分配され、さらに、スロットライン15、16を介してそれぞれ出力ストリップライン21、24；22、23に2分配される。その結果として、入力高周波信号は、出力ストリップライン21、22、23、24の出力端E1、E2、E3、E4に4分配され取り出されることになる。

【0021】たとえば、ノブ13を回動操作して回転基板1を角度θだけ反時計まわりに回動させると、入力部10から出力端E1、E2、E3、E4に至る伝送経路長は下記のとおりに変化する。すなわち、各伝送経路長はテーパ状に設定される。なお、円弧状スロットライン15の半径を3r（rは定数）とし、円弧状スロットライン16の半径をrとしている。

#### 【0022】

|     |       |         |
|-----|-------|---------|
| E 1 | ..... | - 3 r θ |
| E 2 | ..... | - r θ   |
| E 3 | ..... | r θ     |
| E 4 | ..... | 3 r θ   |

したがって、各出力端E1～E4からは、テーパ状の位相差を有する信号が取り出されることになる。角度θはノブ13を回動することによって連続的に変化させることができるとから、各出力端E1～E4から取り出される信号の位相は連続的に変化させることができ、また、信号相互間の位相差も連続的に変化させることができる。

【0023】次に、インピーダンスの整合について説明する。図4は各部の特性インピーダンスを示す図である。すなわち、入力ストリップライン7、8は特性インピーダンスが100Ωとなるように幅が選ばれている。また、スロットライン15、16は特性インピーダンスが200Ωとなるように幅が設定されており、出力ストリップライン21、22、23、24は特性インピーダンスが200Ωとなるように幅が選ばれている。この場合、入力端Aのインピーダンスは50Ωとなり、出力端E1、E2、E3、E4のインピーダンスはいずれも200Ωとなって、インピーダンスの整合がとれる。

【0024】図5は、入力端Aおよび出力端E1～E4のインピーダンスをいずれも100Ωに一致させるための構成例を簡略化して示す図である。すなわち、入力ストリップライン7、8、スロットライン15、16および出力ストリップライン21、22、23、24の特性インピーダンスをいずれも100Ωとする。そして、入力ストリップライン7、8の途中部に $\sqrt{(50 \times 100)}$ Ωの4分の1波長インピーダンス変換器をそれぞれ設ける。これにより、入力端Aおよび出力端E1～E4のインピーダンスを100Ωに揃えることができる。

【0025】なお、図6に示すようにスロットライン15、16の途中部に $\sqrt{(50 \times 100)}$ Ωの4分の1波長インピーダンス変換器を介装したり、図7に示すように出力ストリップライン21、22、23、24のそれぞれの途中部に $\sqrt{(50 \times 100)}$ Ωの4分の1波長インピーダンス変換器を介装したりすることによっても、入力端Aおよび出力端E1～E4のインピーダンスを100Ωに一致させることができる。ただし、図6および図7では、各部の特性インピーダンスは図5と同様に設定されているものとする。

【0026】さらに、図8に簡略化して示すように、入力ストリップライン7、8に接続して、インピーダンス整合回路としてのスタブ30を形成することによって、インピーダンスの整合を図ってもよい。本発明の実施例の説明は以上のとおりであるが、本発明は上記の実施例に限定されるものではない。たとえば、上記の実施例では、入力された高周波信号が4分配される場合について説明したが、軸線5から延びる入力ストリップラインを1本、3本、4本、………とすることによって、それぞれ、2分配、6分配、8分配が可能となる。この場合に、n本のストリップラインの長さの比をほぼ1:3:5:……:(2n-1)とし、このn本のストリップ導体に結合されるn本の円弧状スロットラインを固定基板2に形成すればよい。このとき、n本の円弧状スロットラインは、軸線5上に中心を共有するとともに半径の比が1:3:5:……:(2n-1)となるように形成されることが好ましい。このようにすれば、各スロットラインの両端部に結合させた出力ストリップラインからは、テーパ状の位相差を有する信号を取り出すことができる。

【0027】また、上記の実施例では、入力ストリップラインを回転基板に形成し、円弧状スロットラインおよび出力ストリップラインを固定基板に形成しているが、入力ストリップラインを固定基板に形成するとともに、回転基板に円弧状スロットラインおよび出力ストリップラインを形成してもよい。さらに、入力ストリップラインが形成された第1基板と円弧状スロットラインなどが形成された第2基板との両方が相互に逆方向に回動される構成としてもよい。

【0028】その他、本発明の要旨を変更しない範囲で

種々の設計変更を施すことができる。

【0029】

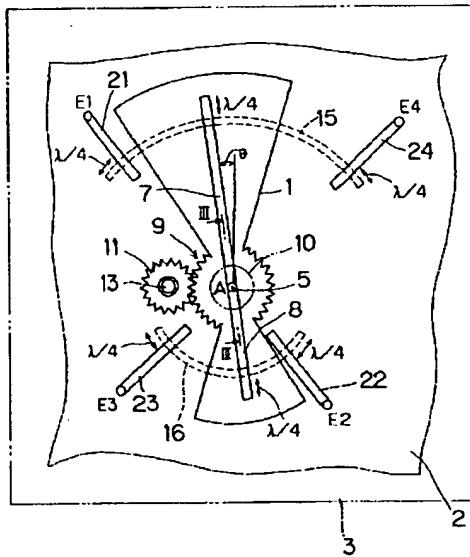
【発明の効果】以上のように本発明によれば、ストリップライン等を用いて分配可変移相器を構成することができる、構成が簡単になり、小型軽量化が図れ、かつ、製造が容易になる。また、電力分配と位相シフトとを同一の構成で行えるので、別々に行うのと比べて部品点数が少なくなり、信頼性が高くなる。さらに、金属接点がないので接触不良を起こすことが少なくなる。

【0030】また、入力ストリップラインの数を変化させることによって、出力数を容易に変化させることができるので、アンテナ素子の数の変化に柔軟に対応することができる。さらに、入力信号の移相量を容易に可変設定できるから、たとえば、移動通信基地局のアンテナなどのようにサービスエリアを随時変更する必要のあるアレイアンテナの給電装置に適用すると、極めて有効である。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例の分配可変移相器の構成を示す平面図である。

【図1】



1 …回転基板  
2 …固定基板  
7,8 …入力ストリップライン  
15,16 …スロットライン  
21,22,23,24 …出カストリップライン

10

【図2】入力ストリップラインとスロットラインとの結合状態を示す断面図である。

【図3】高周波信号が給電される入力部の構成を示す断面図である。

【図4】インピーダンスの整合について説明するための図解図である。

【図5】インピーダンスの整合をとるための他の構成例を示す図解図である。

【図6】インピーダンスの整合をとるためのさらに他の構成例を示す図解図である。

【図7】インピーダンスの整合をとるためのさらに他の構成例を示す図解図である。

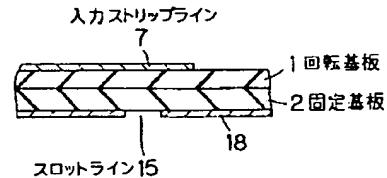
【図8】インピーダンス整合回路を入力端に設けた構成を示す図解図である。

【符号の説明】

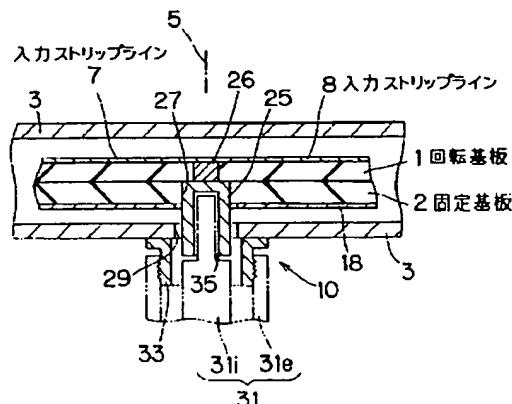
|                |            |
|----------------|------------|
| 1              | 回転基板       |
| 2              | 固定基板       |
| 7, 8           | 入力ストリップライン |
| 15, 16         | 円弧状スロットライン |
| 21, 22, 23, 24 | 出カストリップライン |

20 21, 22, 23, 24 出カストリップライン

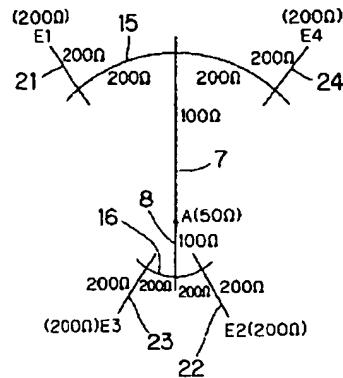
【図2】



【図3】

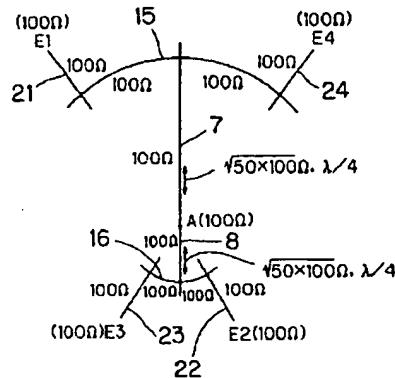


【図4】



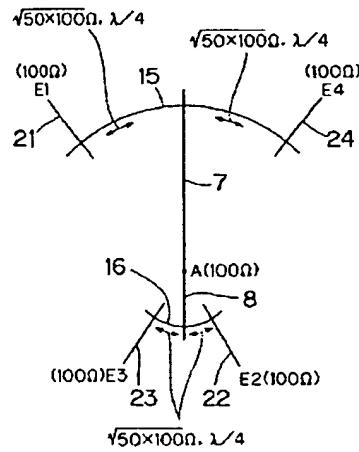
7,8…入カストリップライン  
15,16…スロットライン  
21,22,23,24…出カストリップライン

【図5】



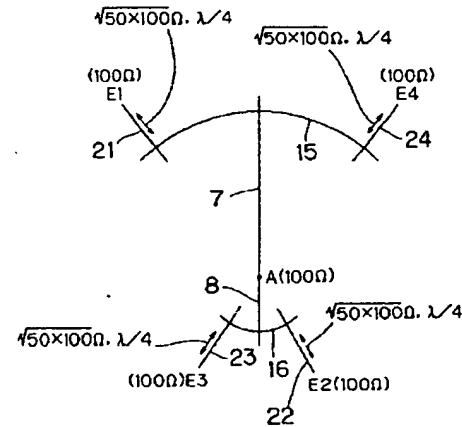
7,8…入カストリップライン  
15,16…スロットライン  
21,22,23,24…出カストリップライン

【図6】



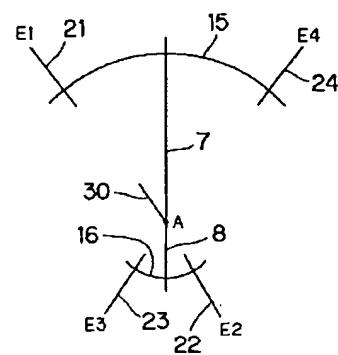
7,8…入カストリップライン  
15,16…スロットライン  
21,22,23,24…出カストリップライン

【図7】



7,8…入カストリップライン  
15,16…スロットライン  
21,22,23,24…出カストリップライン

【図8】



7,8…入力ストリップライン  
15,16…スロットライン  
21,22,23,24…出力ストリップライン

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER: \_\_\_\_\_**

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**  
As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.